流前名寄

乾

ル 4
2909
1

内ル84
2909
1—2

筑前名寄上巻目録

御笠郡 十九邪

竈門山　鎮西　安楽寺　幸橋
湯原　思川　石踊川　染川
白河　染川　御笠杜　大野山
大城山　城山　蘆城　水城
水城関　川萱関　原山

那珂郡 七邪

大正十三年三月四日
購求

博多　荒津　任吉　袖湊
蓑嶋　志賀　濡衣
糟屋郡　五丞
香椎　產宮　箱崎　千代松原
阿部嶋

筑前名寄上巻目録

傍笠郡　十九丞

竈門山　鎮西　安樂寺　幸橋
湯原　思川　石鹿川　深川
白河　深川　御笠杜　大野山
大城山　城山　蘆城　水城
水城関　州萱関　原山

那珂郡　七丞

博多　荒津　任吉　袖湊
蓑嶋　志賀　濡衣
糟屋郡　立花
香椎　産宮　箱崎　千代松原
阿部嶋

筑前名寄上巻

浅野文庫

貝原篤信編輯

糟屋郡

竈門山

筑紫海山也又山並山とも云高山なり山上ハ玉依姫の神社ハ國の中央ハ立て玉土找然あり所以ハ是神ハ天ハ此國の然寺と称ス山上ハ石門乃うまのことくなるあり故ハ竈門山と名く應神天皇誕生の時ハ産湯ハ汲

此あり其山上乃系敦地形ハ[illegible]
淫情かり山上ハ僧坊あり
石壁
かたき山まく東西と処を流つる
ねの乃きく雪あるくこと尺あ　大江匡房
彩績古とハ筑紫ハ[illegible]國ハ[illegible]
いくてもの[illegible]面の形ハ竈門の西[illegible]
鏡をまるとてさへる
面ふまで形さる[illegible]

此鏡今も竈門山の神殿ハ[illegible]
尺八二寸二分あり
現存案未探
ちる者ハ[illegible]
かたきなる火さかり[illegible]花　道信法師
敦忠
[illegible]
[illegible]
拾遺堀の[illegible]
[illegible]
拾遺集十八

[illegible]山のもとまでゆきてゆくるまみちつゝ
ゆくゆくまでふるくかまつゝゆくる
春ゝもし秋ゝうゝくかまつゝ
ゆくもまわもゝくゝよゝくゝる　元禄
長い上角を元禄つゝゆくる古の連寺なり
六帖
ゆくり西ゆくあてゝゝうるまゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
鎮西（ちんざい）　鎮西府ハ即太宰府也鎮府（ちんふ）ハ

又西の都ともいつかり太宰府乃あるゝ國府（こくふ）村
ゝ東観世音寺村の西よつゝ西ゝ小ゝ
ゝ西乃田の中ゝあり大なる礎（いしづ）ゝ基あり一ゝ小ゝ
ゝ府指ゝ南ゝ大門のあゝゝ皆礎（いしづ）後
ゝ門ゝ礎ゝ皆ゝ六尺あまりゝて柱の太
ゝあゝゝゝゝゝ二尺一寸或二尺五寸なゝ
いゝゝゝ変ゝゝゝ人ゝ下ゝ九列二溝
をゝゝゝゝゝゝゝゝゝ政ゝゝゝゝ又異賊（ぞく）

乃[illegible]来日[illegible]へ行[illegible]友の上首位太宰の
帥[illegible]以[illegible]おもむく[illegible]歌[illegible]見[illegible]行[illegible]へ權の帥
い左遷の大臣或大中納言是[illegible]位[illegible]
次乃友位大弐[illegible]弐[illegible]
拾玉集
いかゝへの光[illegible]玉[illegible]
[illegible]
安樂寺　太宰府天滿宮の地なり別[illegible]
あるとゝ[illegible]　蓮鎮

[illegible]
金葉集
神垣[illegible]
[illegible]
彰考館
情[illegible]
[illegible]
[illegible]の奇[illegible]
[illegible]
[illegible]

牽の搖　八雲抄藻塩草に伊勢の國より入く
（[illegible]）
しさ雨まつ[illegible]
名寄　みい世より卯行の名所を角折より西
國より　つち竹宰府天神の山藤所
搖木　寄より所の海より渡り搖なりと云
はしくもり
夫木　[illegible]

湯原　或書に湯原の宰府の[illegible]あり
いつち藻塩草に大和或説[illegible]
紫紫[illegible]
[illegible]宰府あ雲[illegible]
筑前[illegible]
鶴の[illegible]
[illegible]

なる湯の原と云所あり是は大宰府より
五里程なり昔は此所よりて湯あり しかと
是人いまだ今も湯の出る事とあり
の云事なり

万葉二

湯の原はかくあるべきとく

いにしへ人も浦は付たりけれ　沖太傅

支考

付る海神の濱城也乃たりけ

なくてよりの者とあくべん　行家

思川　今は宰府の所にの西なる川なり川常
は川は蛍多し他所の蛍は大也古歌也
この川は蛍多事

後撰集

さつ川とは名にあるあるなり

うかりぬべきあるて消ぬや　伊勢

新勅撰

思川いそにたゞ蛍わくきは

結後三

うかなる流るとも袖はぬれぬ　中務卿宮

山川乃とゞまる新く若川　別雷

いろまら　和名抄ニ

なかれたるの名なれども此事ニ川ニ

あらそでもきてねたのうらかぜ　伊勢具定卷

古今六帖

みなわてきしとそ思ふ龍川

いはまゆく水のまきうつなかれ　寂蓮

新後撰三

夏山はおなしあをはの中にして

流れいもあらはしるへ人　藤原為定

いそ川

石瀬川　天満宮の北ニ

流れあるかわ也思川の上ニ

なり　海ハ海ハ　万代

うら山とも人ハ名もうつ

いそ川ハ川ハ弱なる形事　為教

染川　天満宮の南ニ

あるハ小川なり　電深川と

もいハ雲物ハ　あいとあ川ハいへからく

あるうり　志ろ　染場　京ニ　筑紫太宰府

ろ　ろ

伊勢物語

北の川を　人のいそ

いろはなるてふことの葉の庭すゝ　業平

女のもとにまつらしはべりける

後撰十四
ほのぼのとあけぬるかたのしらくもに　はかなく消ぬる我身なりけり　在原真忠

同じ心

ふるさとはあれにしまゝの荒れはてゝ　人の心のはなのみぞ咲

伝つらはるゝ　堀川院百首

人ぞうらねたきゝ中くれ

あひとあり川をもてさゝ舟　法橋

於恋二十二
我恋川はやせの瀬波のたゝ

なきなくらとゝ今ふるみし　保之

四川　今は宰府の町乃西南にあり白し

後撰集十七恋ゝ　つらはは白川くいふ所なり

こゝ侍りは大宰薩摩奥範弟のまうら

ふるつゝいくはは水くんとてうらもてゝ

ひとりかゝ侍ぬ波ぬてゝ　ふるさとは侍ぬ

ゆゑ物まてゝいとゝ黒髪を土ゝ川と
うつゝとくむしさくもとゝ　按位姫
たゝ和物語まゝむとゝ玉のゝとゝ黒髪い白川
乃ゝつゝとくむまくなわゝまゝかゝゝとあゝ
一説白川い肥後ゝあゝゝ尺ゝ位ゝ太宰
の大武のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
太宰府ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
物語ゝゝ純友ゝゝゝゝゝゝゝゝ

古ゝゝて按位のゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
今古書ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まことしく書たる物好古の性情のおう
なう毒のうちに沈うれい純なとおぼく
き宰府まいりし河の事なりしく後撰
集に春京奥花とうきを和物語にふか
陸奥古とうたりいつまの浦そもを宰
府まあり白川なるへしハ雲拂とも或ちく
たとうたりも藻塩草に白河とも関名に
那須事 山城 奥州 越中 筑前 とうたり

此ホの書に肥後ハ生とくに作とを又
正世印行キ大名寄松葉集なといつる
書ハ土ノ川を筑前ハしも加茂なる
色ノ

瀬河 二日市北少ノ通古瀬といふ村の坤
乃方ニ五町ハ西事ニ川の色乃田の名と
も漢川と云ハ[illegible]拂ともヤ國ハあり
祇ノ行人宗祇指南拂ハ漢川ハ新撰郡

漆生ることあり　拾遺雜下

名ゐ山くくもてを漆川

さかうにけるひと　一説水にあるあり

佐笠森　雜掌の限の所の東小あり大

道ちの二所ほとあり今昔乃森の楠二株

あるをくくさくさくるり磯ゆり山田村ゆ冨

彩子栽条　大師かりみるのものゆてるる

うきてるさりてるのさくれそ佐ゆ国見

万葉四　ふるさと飛鳥ゆりてくおゆ聖ゆ

ふるさのゆ　万葉

大聖ゆりてくかるのゆるさくれゆり

ゆあゆるくおゆ祭にくはりゆ雪

大師山　山笠森の辺り東南の方口ゆ寺

山の西乃ゆりくるくて大師くいふ山いりゆ

あり大師ゆ郷の名ゆ必和名抄ゆ

万葉五　大聖山ゆ立くるりつゆなぐく

左宰大監大伴百代

おきそめの[illegible]

現存条敦杉尋著

大師山ふもとのそらはさわこあく

おきそめの風は月をふく半よ

大塚山　八の宮拾遺まちくさんとおもふ大師の

岩波大塚山〜云沙弥蓮宗月人〜

大伴坂上郎女思筑紫の大塚山の歌

万葉八

いそもかも大塚の山ゆ雲ぬきて

なびくらむ山なしなくも

月ナ

いちさくさくさくらはのあるくみてる日

おもきの山を見つるまくらかな　[illegible]

塚山　左岸府の神の多山口村の南より左言山

なり若く山上ゆ大なり寺院もなく僧坊多

ゆしいつの時ちつ院なくなりぬ山

山の事三代実録又八雲抄ゆ左宰府ゆ

あるいきそもりきの山ともいふと云この

きの山〜奇ゆうも塚の山也紀伊國の背

の山はこのをの山くらあるかくし藻塩草為
る博多の山の外は別なこのきの山をさしてもいい
おとらくらあるやちなる人〳〵筑後国葛井の
連久吉は太宰府より筑後へ行道
まこの山あらくらくらくらいつことかな
万葉五
梅の花ちらくらくらいつことかな
このきの山は雲くらあり博多 大伴旅人
右萃二大宰帥大伴卿宅宴梅花歌廿六首

乃内まあり
菊紫菊は太宰帥大伴卿上京之後筑
後守葛井連大成悲歎作歌一首
今もかいまやもとはらくらくらくらん
もうかもくらくらくらくらくらくらし
葱塩 野川山 宰府の南にあり芦城の
辺にて皆太宰府へ行きて帰るつぎの
花や芦城より来の山くらくらくらくらし

大宰帥石川足人卿任選任(二八丁ウ)餞于筑紫
國薄城(ヒナキノ)豫(ムカヘ)宴歌

万葉四

あをつらら杖衾(ツエフスマ)なるよ苔枕
こゝ寒しくぞ君ゆ思ふ

万葉八

丹生の川ゆ上の瀬の
ら渡せば世ゆ三つ瀬あやぶし

川

女郎贈秋萩歌

萬葉曰左二首他有未詳

万葉十二

有知山ゆ木を伐ることゆ
なりぬるらんいもゆ離れて

他本ニ詳

大宰帥大伴旅人卿任大納言(ニ)(ノ)時(ニ)(ノ)(ニ)(ノ)(ニ)(ノ)
客人(マラウト)(ノ)(ニ)餞(ハナムケ)(ス)(ル)歌(ウタ)

万葉十

月夜(ツクヨ)よみ門に立ちて妹が
待ちし長の道ゆ雪の降りしく

防人佐大伴ニ部

[illegible]

歌きりつむらんや　後人云

名寄

玉くしあ[illegible]

あ[illegible]の[illegible]の[illegible]　カ民

水堀　日本紀ニ天智三年筑紫ニ大

堤ヲ[illegible]

ム城ト[illegible]

乃[illegible]山堤今ハ[illegible]

根盤十五間長サ東西四百五十間堤の内いつ乃

内ちの内ちなり今いまあゝ[illegible]

宰府ニ[illegible]

万葉六

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水城関　水堀乃大堤の東乃山ニ[illegible]通路

[illegible]

[illegible]

右の[illegible]書[illegible]筑紫へ[illegible]

[illegible]日水城の[illegible]小武府[illegible]

[illegible]

一説[illegible]城の[illegible]肥前[illegible]

[illegible]筑紫府[illegible]入日小武府[illegible]

[illegible]筑紫府[illegible]水城の[illegible]

[illegible]

刈萱関　通古賀村の小水城の堤の南より

北通古賀村[illegible]属[illegible]今に松二株あり又

[illegible]の南の[illegible]

[illegible]天智[illegible]

皇三年筑紫の國[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

原山　或書ハ筑紫を宰府の中ゝ[illegible]今案

ゝ宰府のかゝ[illegible]事ハ[illegible]ハ信[illegible]

[illegible]院の別所なりしゝ以[illegible]今も[illegible]院

乃住孫八人宰府を隔て[illegible]の社[illegible]

ら[illegible]

[illegible]

[illegible]

那珂郡

博多　いまゝ[illegible]の[illegible]

ゝ代ゝ乃記録ゝ[illegible]

書紀に応神天皇の御宇に百済王より五経博士を貢ぎ
たてまつる三代実録に文徳天皇の御代
貞観元の大津と記せり日本後紀に淳和
天皇弘仁五年筑紫博多津に新羅の人漂
着の事を載せたり隋帝の時にて博
多乃号を用ひたる久しく絶せ
ずして豪族邑なるべし次第の津と
もいふ

海指遠山はるかにもかすみ乃ぬんとくくかすみ
まつわかるに緑の菊の如き緑くゆり
うらばえくく
うゆうきくく多月に多の玉つん
花ちりさきたるとうつろよ　太武言至
城川伝後百首
うなくくかくの沖まうつろ
ちるあしねよりつるかめ　兼昌
夏
形出をしくかくいつる津さまい

さゝなみ彩波の山をこえてゆく　玉葉

蘆津　海　演　海　三代実録に出雲郡

蘆津と云事こゝ博多の名をいへるやうなれ

ども今は蘆津の湾とも云あまた湾面の名

なれども山のむかひ海をこえて蘆津とい

へるつゞきなれば今は鞆津と云

荒戸といへるなり蘆戸は今早良郡

なる歟也

一万葉十七　あゝ津乃海潮干潮　満ひあまて

月十二　いつ里の附ゝ見ゆる遠き里　奈良時代

家枕ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

おゝてくる　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

月十三　白樹乃神の　ゝ　ゝ　ゝ

あゝ津の浦ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

月十五　神さぶゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

住吉　住吉村ハ博多の南六町ヨリ西ニ住吉
乃神社此村ニ有ル　伊弉諾筑紫日向
之小戸の橋乃檍原ヨリ
ヒ九ラヒ給ヒシ
内底筒男命中筒男命表筒男命ニ
三ラヒ給ヒ神即住吉大神ナリト日本紀
ニ一書ニ云ヒ世神の以ヲ始津國
の住吉大神ハ神功皇后彩雲ニ

といへり今日向國まいたに村出生の人
神なり又小戸橋檍原なりと云所なり筑
前ふくおか國出生の神なりまたのうなり
そこに花青木小戸なと云所あり筑紫に
日本紀私記神中物及宗御の説を見く
しに小戸の橋乃柱の原い筑前ゝ所あるとも
ゆへに日本紀おほ日向と書しい
細あり事なれ説なれとも

続古今神祇

雨乃うゝ雨あるとうつる社ゝ

雨ふれ雨ふれ仁吉乃神　卜部兼直

神の湊　博多ゝ事なり古歌の入り湊也首和
濤乃松原の西博多社東ゝ入海あるゝ
ゝ西ゝ方那珂川ゝ入海ゝ
松神の湊ゝいへりしかゝ入海いなくなりぬ
今博多社入宮寺ゝ市新寺のうゝ所

京町と云所乃滝橋さゝく東西ハ海道也
又是神の社の鐵ハ乃滝橋と名つけ
し也てハ乃湊の落流ハ[illegible]
結後撰集
かゝらなまし
東なくさゝく神のゝ社とハ
続古今
ちはやなるその社とハ
千五百番歌合
ちはやぶる神のゝ社とハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

志賀　鳴山　浦　濱　神津

志賀乃浦ハ福井の博多より三里ハかなり民家多し　三所ハ神社あるなり此社ハ伊勢
諸国橘社ハ原[illegible]玉八[illegible]九神乃

内乃三神ハ[illegible]住吉大神と同胞の神ハ
名あり社なり日本紀悪事紀古事記三
部の本書なり此神の子孫なり日本
紀第一巻ハ底津少童命中津少童命表
津少童命是阿曇連等の祖なり神
なりとあるハ神此所ハ鳴音ハ糟屋郡
ハ属なり

万葉三
志賀ハあさくハあかり志賀ハ紅いろ[illegible]なり

つるとくなかとちもとへ行くまつ川の高木

萬葉集云石川朝臣君子号曰少郎子（ワカイラツコト）

月七

さゝ波乃あゝ打ちはつく潮風とゝ

しらくの浦てゝ山よりきよく出る石

月十一又後古今

さゝ打ち寄せまの三あやきあなあれ

よりてふもの人とゝわねはさ　人の

月十九

さゝの渡さゝ日もおらさ焼塩の

かゝまくとゝあまてゝとゝかも

月十六

さゝのゆいてなきりてあゝとゝの

俊文抄云ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

月十五

さゝ打ちうゝまいちゝあさ波とゝ

うゝよりてゝよりゝのさゝ

月十七

さゝ波去海士の焼塩乃

うゝよりとゝとゝわとゝのもゝ川部

月十八

筆花乃あゝうゝ　み

しゝひゝをあゝさゝの渡へを　文字大監大侍省保良氏

日七

[illegible]

日十二又於[illegible]

[illegible]

[illegible]川後百首

[illegible]

[illegible]

金聚主[illegible]

[illegible]

日

[illegible]

[illegible]

一日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くみていとまもなくて世をあばらしなりぬ
宮海人（あま）とうたひ云ふ世はまてこそつま
ものの家の娘兎ほ〳〵乱なく
へまもりつるの法の花をぬきておらし
つるぐるいへとまくらの家をとりもつる
海人陸奥うたてねとのうぐいすぐら
まこ云ふ山つい文色をまこ大まいわ行てし
まはむとあぬ是ぞ和をひうまそれ

是先いむとあ乃孫ぞう河内の後母のまきた
うなり八幡宮父ちまこそうまうまこ法さて
こちまは姫をまこうまうさく次の年ぬあ
文乃夢よんて文二首の奇法詠しまる
ちう四あ君ちむとあ社殿なまこ法さて
まさてい後母のまさかなわとく東法おくう
えしこまう百い出家して松浦小弓信きわ
世は松浦上人とを云ふうとわしてなる

あかしかなしかねもてゆきてこれはへるは
あるひとはるこれをむすめの墓なりと聖福寺
の西門のうちなるよもぎはなきせうつ
しをかいに第橋松原の西乃橋きはの橋の
東石堂はの川まさきなる小池のうちまさ
石どさうしとかきかえ乃字はしるの社なり
寄二首

ねもてゆきてもかきてうちのねをたい

なるうきなかぶ乃ちかの字
酒花乃ちそうつ工飛ちうう
なるかをとあるとあ一形の乃れ
ちの二そ蓑まこ乃ち寄なち
古今八雲抄
うきくしこうなんとうあよ
ねもてゆねうをきて元ちそ元　こ人は
竜のきくうくはまるうちなくうう
つねてう

後撰 春ゝ立つ日よりまつ事なれば
　　ゆきのうちのうぐひすの声
なき名立ちぬ比
　　冬ゝ
　　ゆきもまつ梅さくなるものゝ
　　けふ後乃きさらぎ事、後人後

糟屋郡

香椎（かうしゐ）　宮　浮　浦　渡　綾牧

此所ゝ神功皇后の山社也故ゝ神功皇后

乃御事成香椎大明神と申ス伝仲哀天皇此
所ゝ崩御し玉へ[ハ]ちこの山抜を椎の木ゝ
ゝ生ゝ異香薫（いかうくん）しゝ事椎と云ふ故
也ゝ今ゝ此ゝ椎の木ゝ[ハ]ゝ[ハ]ゝ神木
ゝ神功皇后新羅をうち給ふ時ゝ試
ゝ此ゝ成沒給ふ所ゝ不思議の行事（おこない）
て彩色紙の事ゝ[ハ]ゝ玉ゝ[ハ]ゝ色ゝ[ハ]ゝ軍
ゝ[ハ]ゝ日本紀ゝ詳ゝ[ハ]ゝ彩

[illegible]を行日[illegible]まで再び堀[illegible]
[illegible]堀西学甲豊浦堀[illegible]
堀なり[illegible]又西[illegible]
[illegible]此枝地形[illegible]
[illegible]変い今乃濱男町の[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]
[illegible]乃[illegible]

[illegible]
[illegible]なり[illegible]濱男村南の川入海[illegible]
[illegible]香推の渡といへるを古人[illegible]
古所乃[illegible]
万葉六
いさやこゝ香推乃渡[illegible]白[illegible]
神[illegible]
同
同[illegible]
[illegible]
[illegible]

隆春の大宰帥は三つ[illegible]なる[illegible]の[illegible]
[illegible]社は[illegible]
[illegible]枝の葉紙[illegible]帥の[illegible]
[illegible]
帥の[illegible]
[illegible]

言葉集九
手昇振かけ[illegible]の枝の葉紙

二[illegible]
彩古十九
[illegible]香推の[illegible]の枝

神[illegible]大伴武[illegible]

神のみ[illegible]
彩浪撰十八
[illegible]香推の[illegible]

[illegible]大須賀[illegible]

右大宰帥[illegible]
[illegible]
おもつ[illegible]
[illegible]
かも[illegible]

[illegible]

古今名とまちと云説あり心もちなら[illegible]を内志方本椎の字はまなり鮮
拙用[illegible]和語[illegible]例多
後古今十 新出[illegible]おなつ志[illegible]志[illegible]人の
[illegible]方はしら[illegible]波[illegible]尺也 家抄

産宮 [illegible]の宮

八幡宮あり日本紀ハ神功皇后新
羅を攻給ひ行日[illegible]度神を[illegible]ひ行
[illegible]和なり田へうゑ[illegible]と以[illegible]志[illegible]世和を牧

田と云世尺[illegible]ハ乃
幡[illegible]り弘神号を八幡大神と名つ尺
事紀ハのうゑ[illegible]
おうゑハ幡[illegible]
生乃世なる志[illegible]
の末ハ和[illegible]
事慈鎮和尚の愚家抄八幡愚童訓
[illegible]ゑ[illegible]今も槐の末あり神ま也

子安の森と云也 [illegible]の槻 [illegible]

[illegible]子母秘録と云もの

醫書にも槻の木は東にうゑ枝は

孕婦にすゝしく [illegible]

[illegible]宮石槻の木 [illegible]

[illegible]

万代集

[illegible]人をうらむらひあるてを

うゑ [illegible]

[illegible]

於手八

[illegible]

春新宮の [illegible]

素

朝日さす [illegible]

[illegible]世はうらのみや 西行

箱崎

延喜式に [illegible]那珂郡とあり [illegible]糟屋

郡に属せり 世俗に菖蒲津の浦と云 [illegible]

宮石八幡宮誕生の時山胞衣を [illegible]入

[illegible]

但浮屠氏もちゐ戒定恵の三學乃箱沢
うつう亟なる加ゆゑつくるゆゑ
此比佛法いまき事邪へうさかく言
信ずること亟の事ゆゑ人ゝ松をさす
乃松ゝ云俗ゆゑ第松といり延喜の時岡八
幡大神の山託宣ゆゑて敬國淳伏の山
宇沢宸鶴ゆゑ奉ずること神殿の山松の下
ゆゑ教行ずること有山社ゝ海辺ゆゑて乾

乃ゆゑ人ゝ敬國淳伏沢ゆゑ
ゆゑ人ゝいちきて凡箱清ゆゑ海辺のな
あゝ池邪ゆゑ玉ゆゑ住原ゆゑ見ゑ人の
見沢鶴ゆゑ

拾遺二六
世ゆゑかちつくんゆゑ

後撰十九
ものゝうゝ社人ゝの乃ゆゑ乃つなゝ

拾遺

松ゝ人ゝの乃ゆゑ社ゝ

中務元

[illegible]

右筑紫國名護屋の文社さうの松なり

[illegible]

彩[illegible]

[illegible]

[illegible]

兼中納云医房二度帥に成るなり

[illegible]

凡雅集

[illegible]

彩長寺

[illegible]

[illegible]

中代の松原　箱崎なる松原なり海さう社書

[illegible]

原南小一里と云ふ所東西五町

十町[illegible]

し生乃松原い重ひきて山高い土地肥饒

なまきしの松高きに地い白砂ゆいらうめし

く雪ふる庭のとしいろ紅葉なり

末葉

第濤や千代を松原そてこそ

くつまんと世とく高いきし白波

今業石こそ昔賣賊藝家の

ちよのあるは第濤乃浦を石ゆきは

こそらをとかうへしは國ゆつし

く名付し事古説さまくあり高とも

潟高石垣城をつきし石筑石といへ

ども新なるへし

部の鴻　日本紀孝元巻を当國あへ乃

あ人の事ありう今ありまりく藍潟と

云ふ潟とく称事歌を称しし詩賦類詩

集ゆのもの歌潟の恵潟とうあり泊のなり

とロつり今も旅船の泊る石なり又摂津國

住吉郡まもあへ浦あり阿部野のあたり
まあやさかたるのきて乎まもある山宮
有賀の宮石なのあるへよ浦ハ橋津
國まいたこ江
万葉十二 玉勝万あへ浦山乃白ゆつ越て
同二 妹ねハ恋やあきさ山長江 作者不詳
あへのしき賀のきを石まる波の
まかりこの江やまたり敷ほの白山部赤人

俗古 あへ山の宮ねたこ乎
さあ今東乃月のまるかさ
名歌 拾遺 神もかくほあへん
あへ山ハつ越ふたこ
夫木 香推深夕きわうをこきくわく 通具
阿へ乃山にちりさいなの 小内侍
或説ハ宗俊郡大鴻を阿へ浦と云者あ倍宗任大鴻ハ
流れたるを宅今ハのうたかはまちを花の内ちる
大鴻ハ今も宗任の苗裔おれ松浦黨ハ宗任の子一人
おのれまもり松浦へ由さしらこを去なり宗任ちをうとをう

なわくしあへとゝさゝわとゝ伍部馮ハ日本紀第八巻に
とゝ宗但ゝわ古代の書よりとゝゝ名なもゝ世後用ゆ〳〵
ゝゝ

筑紫名寄上巻終